2019春季生活闘争
ＪＲ連合ＦＡＸニュース　　Ｎｏ．４３
２０１９年　３月　７日　　日本鉄道労働組合連合会

貨物鉄産労第２回団体交渉

収入・輸送量動向について説明を受ける

貨物鉄産労は、３月１日、２０１９春季生活闘争の第２回団体交渉を行い、会社から直近の収入・輸送量動向について説明を受けた。

説明では、１月の収入は、コンテナ・車扱とも堅調に推移し対計画３２５百万円（１０３．３％）、対前年４６４百万円（１０４．８％）の増収となった一方、輸送量は、コンテナ・車扱とも前年を下回り、全体では対前年９８．７％となったことなどが示された。また、連結の通期業績予想について、３月が計画どおりに推移すれば約２０億円の経常利益が確保できるとの見通しが示された。

会社からの説明を受けて組合は、収入確保や安全安定輸送に引き続き取り組む態度を明らかにするとともに、ロジスティックス会社の窮状を指摘。グループ会社あってのＪＲ貨物であることを訴え、ロジスティックス会社の労働条件改善原資を創出するべく業務委託料の引き上げを強く求めた。

一方会社は、ロジスティックス会社の現状は十分理解しているとしながらも、「要員対策や教育面での支援などを継続していく」と述べるに留まった。

貨物鉄産労は、ＪＲ貨物グループ全体における雇用の確保・定着にむけて、２年連続のベースアップの実施をはじめとする要求実現に、精力的に取り組むこととしている。